

# ほけんだより

いずみこども園 令和7年7月

## 蚊に刺されたときの対処法【ホームケア版】

### 蚊に刺されたらどうなるの？

蚊は、血液を吸うときに自分の口から唾液の成分を私たちの体に注入します。この成分に、免疫が過剰に反応してアレルギーを起こし、腫れや痒みを起こします。

ただ、赤ちゃんや小さな子どもでは、体の中でアレルギーが起こるのに時間がかかり、反応も強くなります。そのため、少し時間が経ってから、すごく腫れて水ぶくれができることがあります。子どもは掻き壊して傷になることもあるため、注意しましょう。



### 蚊に刺された時の対処法

- ・刺されたところを水で洗い流し、皮膚を清潔にします。
  - ・痒み止めを塗布したり、濡らしたタオルや保冷剤を当てたりして、痒みを和らげます。
- ※刺されたところを、かきこわして、細菌に感染してしまうと、「とびひ」になることがあります。

### 伝染性膿痂疹(とびひ)

虫刺され、汗疹、擦り傷、アトピー性皮膚炎などを手で触ったり掻いたりすると、皮膚表面に複数の細菌が付着して繁殖し、皮膚がただれたり、水ぶくれ、瘡蓋ができます。とびひの原因ウイルス黄色ブドウ球菌は、高温多湿を好むため、夏になると流行します。



### 伝染性膿痂疹(とびひ)の対処法

患部を触った手で体の他の場所に触れると、感染がさらに広がります。ガーゼで覆い、患部に直接触れないようにしましょう。状態がひどい場合には、医療機関を受診するようにしましょう。

汗をかいたら、こまめに着替え、シャワーを浴び、体を清潔に保つことが大切です。子どもの間で感染しやすいので、家庭でもタオルの共有は控えましょう。また、爪を短く切り、皮膚を傷つけないようにしましょう。

※プールや、友達と一緒に水遊びなどは、とびひの症状が悪化したり、友達にうつしたりする可能性があります。

そのため、完全に治るまでは、水遊びやプールでの水遊びには参加できません。ご配慮、ご協力をお願いします。

### 登園は状況に応じて

◎基本的には、医師の診断や治療を受けて、とびひの部分をガーゼや包帯できちんと、覆っていれば、登園することができます。

◎とびひが多発して広範囲の場合は、医師の診断と治療を受けて、登園可能かどうかを確認してください。全身状態が良い状態での登園をお願いしています。

# 気を付けたい夏の感染症(登園にあたっては、医師の診断が必要)

すぐーる配信のタイムラインに都度、【ほけん通信】「〇月中罹患状況のお知らせ」を、延べ人数で載せています。また、同じ案内を玄関入口の【保健情報】に掲示していますのでご覧ください。

病名	病原体と症状
<b>咽頭結膜熱</b> 	<p>【病原体】・アデノウイルス</p> <p>【症状・特徴】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>急に高熱が出て3～4日続き、のどの痛み、目の充血・目やになどの結膜炎の症状があります。</li></ul> <p>【感染経路】・飛沫感染、接触感染。</p> <p>【登園の目安】</p> <ul style="list-style-type: none"><li><u>発熱、目の充血等のおもな症状が消失した後、2日を経過していることです。</u></li></ul>
<b>手足口病</b> 	<p>【病原体】・エンテロウイルス、コクサッキーウイルスなど</p> <p>【症状・特徴】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>口の中、手足の末端、肘、膝、おしりなどに水疱性発疹ができます。(口内炎がひどくて食事がとれない・爪が剥がれたりすることもあります)</li><li>発熱することもあります。</li><li>また、無菌性髄膜炎を合併症することがあります。</li></ul> <p>【感染経路】・飛沫感染、接触感染、経口感染。</p> <p>【登園の目安】</p> <ul style="list-style-type: none"><li><u>発熱や、口内炎の水疱・潰瘍の影響がなく、普段の食事ができることです。</u></li><li><u>食べられない状態の時は登園を控えてください。</u></li></ul> <p>【留意すべき事項】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>潜伏期間：3～6日</li><li>症状が出た最初の週の感染力が強く、回復後も飛沫や鼻汁からは1～2週間、便は数週～1か月間程ウイルスが排出されます。</li><li>何度でも罹患する可能性があります。近年は変異型ウイルスも多く、症状も非典型的で手足口以外に、臀部にも発疹が出現します。また、かかっても全く症状の出ない(不顕性感染：ウイルスを排出している)場合があります、終生免疫ではないため、大人にも感染する可能性は十分あります。アルコール消毒はあまり効果なく次亜塩素酸消毒が有効です。</li></ul>
<b>ヘルパンギーナ</b> 	<p>【病原体】・主にコクサッキーウイルス</p> <p>【症状・特徴】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>夏かぜの代表(春から夏にかけて流行する)</li><li>急に39℃前後の熱が出て、のどの痛みを訴えます。</li><li>のどの奥に小さい赤い水疱ができ潰瘍となるため痛みを訴え、食欲が低下したり、不機嫌になったりします。</li><li>口腔内の疼痛のための不機嫌や、食べられない、飲めないことによる脱水症などを起こすことがあるので注意します。また、無菌性髄膜炎を合併症することがあります。</li></ul> <p>【感染経路】・飛沫感染、接触感染、経口感染。</p> <p>【登園の目安】・<u>発熱や口腔内の水疱・潰瘍の影響がなく、普段の食事がとれること。</u></p>